事務所

R2 14

事務所ビルに関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1．ジョンソン・ワックス・ビル（アメリカ、1936 年）の 2 層吹抜けの執務スペースでは、天井付近が広がった樹木状の柱や柱頭まわりの天窓、ハイサイドライトによって、内部に自然を再現している。

2．フォード財団本部ビル（アメリカ、1967 年）は、ビル内部に豊かな植栽が施されたアトリウムをもち、各フロアの執務スペースはアトリウムをＬ字型に囲むように配置されている。

3．丸の内ビルディング（東京都、2002 年）の高層階のオフィスゾーンは、中央にアトリウムを設け、事務室沿いの廊下をアトリウムに面して配置しており、その廊下から建築物のどこの位置に自分がいるのかを把握することができる。

4．ROKI Global Innovation Cente（r 静岡県、2013 年）は、執務スペースが階段状に積層する立体的なワンルーム空間に、ガラスをはめこんだ木と鉄のハイブリッドトラスの屋根をかけ、自然光を通すフィルターを使用した天幕を設けている。

R元 7

建築物の各部の寸法等に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1．地下階に駐車場を設ける大規模店舗において、売場のレイアウトと駐車場の駐車台数の効率を考慮して、柱割りを 8.5 m # 8.5 mとした。

2．**高層事務所ビルのエレベーターの計画**において、低層用 5 台と高層用 5 台とを幅 4 mの通路を挟んで対面配置とした。

3．**図書館の開架閲覧室における複式（両面使用型）書架**の中央支柱の心々距離については、車椅子使用者同士がすれ違うことができるように、250 cmとした。

4．普通乗用車を駐車させる**屋内駐車場の計画**において、1 台当たりの所要面積をなるべく少なくするため、直角駐車とした。

H30 7

建築物等の各部の寸法に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1．排気量 250ccクラスのオートバイの駐車場の計画において、平行駐車の 1 台当たりの駐車区画の寸法を、幅 60cm、長さ 230cmとした。

2．庁舎の車椅子使用者用受付カウンターの計画において、天板の高さを床面から 70cmとし、下部に車椅子のフットレストが入るスペースを設けた。

3．多人数の成人が利用する男性用便所の計画において、隣り合うストール型小便器の中心間距離を、90cmとした。

4．事務所ビルの計画において、10 席程度の会議室の内法寸法を、3．6ｍ×7.2 mとした。

H 29 6

建築物の各部の寸法等に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1．事務所ビルの事務室において、椅子に座った状態で室内の見通しをよくするためにパーティションの高さを床面から 110cmとした。

2．幼稚園において、子ども用足洗い場については床に５%程度の勾配をとり、子ども 用手洗い場についてはその高さを床面から 65cmとした。

3．小学校において、居心地のよさや落着き感に考慮しつつ、教室の天井高さを 2.7mとした。

4．病院の４床室の病室において、隣り合うベッドとベッドの間に幅１m以上のスペースを確保するため、その床面積を患者一人につき８m2とした。

H29 14

大規模で高層の事務所ビルの防災計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1．**非常用エレベーター**の乗降ロビーは、消防隊が消火活動拠点として利用するため、 その面積は、非常用エレベーター１台につき 15m2以上と定められている。

2．**エレベーター**、階段等を含むコアの配置のうち片寄せタイプについては、一般に、 避難上不利な点が多く、その採用に当たっては、シミュレーションや実験等により 安全性を確認することが望ましい。

3．火災の拡大を防止するためには、出火の可能性が高いエリア(部分)に、防火上有効な区画を設けるとともに、初期消火設備の設置や不燃性のある建築材料を使用する ことが求められる。

4．屋上に緊急離着陸場を設けた場合、そのスペースは、在館者の救助に使用されると ともに消防隊の突入時にも利用される。

H28 8

建築物の各部の寸法等に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1．中規模事務所ビルの計画において、基準階の共用部の主要な廊下の幅員を、2.0mとした。

2．公共体育館の計画において、成人用バスケットボールコートを二面配置するために、 床面の内法寸法を、30m×35mとした。

3．バスターミナルの誘導車路の屈曲部の計画において、全長 12m程度の大型バスの最小回転半径を、12mとした。

4．大規模量販店の計画において、売場の客用通路の幅員は、主要な避難通路を 3.0mとし、それ以外の通路を 1.8mとした。

H28 14

事務所ビルの計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1．事務室内のヘビーデューティーゾーン(重荷重ゾーン)の床の積載荷重を、2,300N/m2とした。

2．事務室内のフリーアクセスフロアの高さを、100mmとした。

3．事務室内の照明計画において、アンビエント照明の照度を、500lxとした。

4．基準階の事務室の床面積を 1,000m2とする貸事務所ビルの計画において、男子小便器３個、男子大便器３個、女子便器４個とした。

H27 14

事務所ビルの計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1．地上 28階建ての事務所ビルのエレベーターの計画において、各ゾーンのサービスフロア数を 10フロアとした。

2．省エネルギーに配慮した照明計画において、一般の事務室の机上における照度の目 標を 750lxとし、昼光センサーと連動して照度を制御する照明器具を選定した。

3．基準階(床面積 3,000m2)における電気設備や盤スペースのEPSは、事務所ビルを利用する組織やテナントの変化に対応する必要があったので、二次側配線のために 集中配置とした。

4．地上 18階建ての貸ビル(基準階の床面積 1,200m2)において、非常用エレベーターの乗降ロビーを特別避難階段の付室と兼用させて、その床面積を 15m2とした。

R3 8

建築物の各部の高さに関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1．**百貨店のトイレ・洗面所の計画**において、乳幼児用おむつ交換台の高さを、50 cmとした。

2．**庁舎の車椅子使用者用トイレの計画**において、ドアを開閉するための押しボタンスイッチの高さを、110 cmとした。

3．**ホテルのフロントカウンターの計画**において、一般用の高さを 100 cmとし、車椅子使用者用の高さを 70 cmとした。

4．**事務所ビルの事務室の計画**において、椅子に座ったときの視界を遮るためのパーティションの高さを、120 cmとした。

R5 14

事務所ビルの計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1．高層事務所ビルにおいて、**基準階の平面寸法を 45 m × 80 m**としたので、フレキシビリティや面積効率を高めるため、センターコアタイプとした。

2．事務所内だけでなく事務所外も含めて、業務内容や気分に合わせて自由に働く場所を選択できる働き方「ABW（Activity Based Working）」を導入し、事務所内には多様な場所を計画した。

3．直通階段が 1 か所のみの賃貸事務所ビルの改修において、直通階段と離れた位置に外部から救出可能な開口部がある退避区画を設けた。

4．**パソコンを使った作業の多い執務空間の照明計画**において、ディスプレイ面の文字や図の見やすさを考慮し、鉛直面照度を水平面照度より高くした。

H 25 13

商業建築等に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1．プロセニアム形式の劇場の計画において、１階の各座席から舞台を見下ろしたときのふ角を５～15度までの範囲に保ちつつ、すべての座席から舞台の光幕が見えるようにした。

2．事務所ビルの便所の計画において、衛生器具の個数を、男女別の想定利用人数と待 ち時間に対する利用者の評価であるサービスレベルにより定めた。

3．20階建ての事務所ビルの計画において、概算で乗用エレベーターの台数を設定する際に、**エレベーター利用対象人員**250人当たり１台とした。

4．シティホテルの計画において、各階単位での改修を考慮するとともに、階高を低く 抑えるために、客室ごとに分離したPS(設備縦シャフト)とはせずに、集中PS(設備縦シャフト)を採用した。

H26 8

建築物の各部の寸法に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。。

1．保育所の幼児用トイレにおいて、３～５歳児用の小便器の間隔を、55cmとした

2．リゾートホテルの大浴場において、洗い場のカランの間隔を、隔て板を設けなかったので 60cmとした。

3．事務所ビルの事務室において、設置するパーティションの高さを、椅子に座った状 態で見通しがよくなるように、**床面から 110cm**とした。

4．屋内の公式試合用のテニスコートにおいて、コートの中央部分(ネットの真上)の天井の高さを、15mとした。

H26 14

商業建築等に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1．20階建ての自社専用の事務所ビルにおける乗用エレベーターの台数については、エレベーター利用のピーク時の５分間集中率を在館人数の 25%として算出した。

2．大規模商業店舗の計画において、地下階に設ける駐車場の各柱間に普通自動車が並列に３台駐車できるように、柱スパンを７m×７mと設定した。

3．基準階の平面が 25m×20mの低層の事務所ビルの計画において、事務室の適切な奥行きを確保するために、偏心コアタイプを採用した。

4．宴会場を備えたシティホテル(客室数 750室)の計画において、客室一室当たり100m2として延べ面積の検討を行った。

H26 17

建築計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1．事務所の計画に当たり、固定間仕切を使わず、ローパーティション・家具・植物等 を自由に配置することによって、適度なプライバシーを保った執務空間を形成する オフィスランドスケープを採用した。

2．事務所の計画に当たり、在席率が低い職種の事務所であったので、フリーアドレスオフィスを採用し、執務空間を有効活用できるようにした。

3．劇場の計画に当たり、台詞を主体とする演劇の見やすさを考慮し、可視限界距離を20mとして客席の配置を計画した。

4．図書館の計画に当たり、閉架式書庫の内部にブラウジングルームを設け、BDSによって、入室管理を行うことができるようにした。

H26 6

建築計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1．児童数 700人の小学校の計画において、学校内に学校給食施設(調理室、調理従事員室、食糧貯蔵室等)を設置するため、その床面積を、49m2とした。

2．事務所ビルの計画において、収容人員 12人程度の会議室の内法寸法を、５m×10mとした。

3．シティホテルの計画において、収容人員 100人程度の着席形式の結婚披露宴ができるように宴会場の床面積を、250m2とした。

4．自走式の立体駐車場における自動車の車路の計画において、傾斜部の本勾配を1/6とし、傾斜部の始まりと終わりのそれぞれの長さ６mの部分の緩和勾配を 1/12とした。

レンタブル比

- 事務室の有効面積/延面積×100
- 建物全体65～75%
- 基準階　70～85%

センターコア

1,500～4,000㎡

- ２方向避難△
- レンタブル比　高　○
- 構造バランス　○

分散コア

1,000～1,500㎡

- ２方向避難　○
- レンタブル比　下　△（階分割）

偏心コア

500～2,000㎡

- ２方向避難△
- レンタブル比　高　○
- 構造バランス　△

事務室計画

- 床面積　8～12㎡
- 奥行
  - 片面採光　10～15m
  - 両面採光　25～30m
- 環境
  - 照度　500xl
  - 騒音　50db
- 防災・救助
- 積載荷重　2,900N /㎡

エレベーター

- 朝の出勤　5分間
- 2,500～3,500㎡/台
- 高層ビル　バンク分＋　乗り継ぎ階
- １列　４台まで→ ５台以上対面
- 対面距離
  - 3.5ｍ～4.5ｍ
  - 高低層２Gr；6～８m

便所

サービスレベルと待ち時間

- RC　スパン　6～８m
- 階高　3.3～4.2m（基準階）
- フリーアクセスフロア（OAフロア）　60～150㎜
- 延面積５～８%
- 機械室
  - うち電気室　１～２%
  - EPS　分散配置；望ましい
- 廊下　幅；２m（望ましい）
- 会議室　2.0～5.0㎡/人
- ランドスケープ
  - オフィスレイアウト
  - パーテーション
    - 座位　見通し；110㎝
    - 立位　見通し；120㎝
- フリーアドレス　特定座席；廃止